

育徳泉

識名園の立地は、池を満たし水を供給するこの育徳泉と呼ばれる天然の淡水泉があったことから選ばれました。沖縄のあちこちにある数多くの神聖な泉と同様、この泉には神の力が宿っているとされています。正門から伸びる美しく整形された石畳の道は、精巧に加工されたサンゴ石灰岩の半円形の隙間に収まっているこの泉に続きます。今日まで透明なままのこの泉にはシマチリスジノリという食用の水草やカニなどの生物が生息しています。2つの石碑には、19世紀初頭に訪れた中国の使節によって書かれた育徳泉を称える碑文が刻まれています。泉から御殿に至る巧みに曲がりくねった道の石垣は、丁寧に成形された不規則な六角形の石が緻密に積まれる洗練された様式から、隙間に入り込んだ植物が生い茂っている未加工の石が自然に並ぶ部分へとさりげなく移行します。この道は、訪問者が日常世界の境界を越える心の準備をさせてくれます。